

平成 25 年度大学職員情報化研究講習会～応用コース～

第 1 分科会「主体的学びを促進する ICT を活用した学修支援環境の考察」

第 4 グループ討議経過と内容

<討議経過>

◇導入や運用の課題や問題点について

グループ内での自己紹介では LMS・ポートフォリオ導入や導入検討時における以下の課題や問題点についてあげられた

- ・使用している教員は一部で、パソコン操作に慣れない教員に日常的に使用してもらうことが難しい
- ・学生にとってポートフォリオのメリットである「就職活動に使用できる」といった内容はすぐにメリットを感じられず、ポートフォリオの使用につながらないのではないか
- ・教員や学生に対して LMS やポートフォリオを使用して得られる将来的なメリットで訴えることは結果として共感を得にくいのではないか

◇目的と必要性および効果的な活用方法について

そこで先述した課題や問題点から、次の議論が行われた

- 課題や問題点でのディスカッションから、LMS やポートフォリオを使用するメリットは、教員や学生側からみて即効性が高く、明確なものであるべき
 - LMS やポートフォリオの導入により、大学にどのような利益があるのか、学生サービスからの視点だけでなく経営的な視点からも考える
 - LMS やポートフォリオはあくまでツールであり、これらのツールの特性を活かせる目的・必要性を定義する
- LMS・ポートフォリオの特性は「科目ごとや学生ごとのデータを数値や情報として蓄積し、共有できること」ではないか
- この特性を活かし、教員や学生にとって即効性が高く・大学にとって有益となるような活用方法・目的を検討する

◇活用方法の例◇

- ① 学生の履修登録や学習履歴から、過去に類似した学生の履修登録科目や活動記録を紹介する。また、同じような大学生活を送った先輩がどんな進路や職業についているかを紹介し、進路の参考や自身のキャリア形成に役立ててもらおう
- ⇒大学での学生個人個人の活動や実績など、行動履歴や適性をデータとして蓄積することで学生の傾向を図ることができ、また他の学生と紐付けることで、学生が知らない活動範囲や情報を提供し、学生間の情報を共有することができる
- また、学生の情報がデータ化され蓄積されることで、学生に関する情報を指導に当たる教職員が学生の情報を等しくもつことができ、効果的な指導を行うことが出来る。

■学生のキャリア支援や就職率の向上に貢献できるのではないか

- ② ブラックボックスになりがちな在学生の学生生活を情報として記録することで学部学科ごとの学生の傾向を分析する

■入試や学生募集における志願者向け在生データとして広報で活用したり、学部学科における在学生の傾向把握として使用する。志願者にとってはより学部学科で学ぶイメージができ、学内においては学生の傾向に合わせて今後の授業運営や学部学科運営の改善や対策を行うことが出来る。

◇まとめ◇

今回は討議時間が限られていたため、導入や運用の課題・問題点について十分に議論することはできなかったが、LMS・ポートフォリオを導入するにあたっては、教員や職員、学生の三方にとって有益である理由が必要であるが、これについてはより議論が必要である。また、運営主体を明確にすること、入力や記録が負担にならないシステム作りや授業の仕組みづくりなどを行うことで積極的な利用環境を作ることも課題である。